

菊本副院長の漢方問答 その60



問 「高血圧の漢方治療とはどのようなものですか？」

答 肥満と関係が深い「高血圧」の漢方治療について、お話しします。

表は、日本東洋医学会が出版している「入門漢方医学」に記載されている「高血圧症の頻用漢方薬」です。

「大柴胡湯」「柴胡加龍骨牡蠣湯」は、前回までにお話した「肥満の頻用処方」にも登場していることから、

肥満と高血圧の病態が似通っていると推定されます。

今回は「八味地黄丸（八味丸）」について、お話しします。

八味丸は、「金匱要略」という、漢方の極めて重要な古典で紹介されています。構成生薬は、地黄、山茱萸、山藥、沢瀉、茯苓、牡丹皮、桂枝、附子です。

日本漢方の巨匠で、腹証の創始者である「吉益東洞」先生は、「八味丸

を投与する際には、『小便不利（尿が出にくくいこと）』と『少腹不仁』を重視せよとおっしゃっています。

図1は、江戸時代に出版された「腹証奇覽」に掲載されている八味丸の腹証図です。おへその両側(①)と、

下腹(②)に所見があります。このうち、②が少腹不仁を表わしています。

図2は、私の漢方の師匠が描かれた八味丸の腹証図です。図1と同様、おへその両側(①)と、下腹(②)に所見があります。①は、尿が出にくくなっている証拠で、おさえると

硬くなっています。②は、へこへこで柔らかく、いかにも「元気がない」という印象です。八味丸を服用すると、①と②が改善し、血圧が安定します。

です。

高血圧の頻用処方

だいさいこうとう
大柴胡湯

さいこかりゅうこつぼれいろう
柴胡加龍骨牡蠣湯

おうれんげどくとう
黄連解毒湯

ちやうとうさん
釣藤散

はちみじおうがん
八味地黄丸

(日本東洋医学会、「入門漢方医学」)

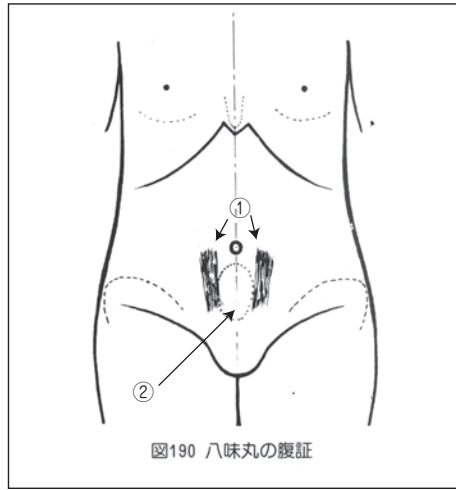


図2

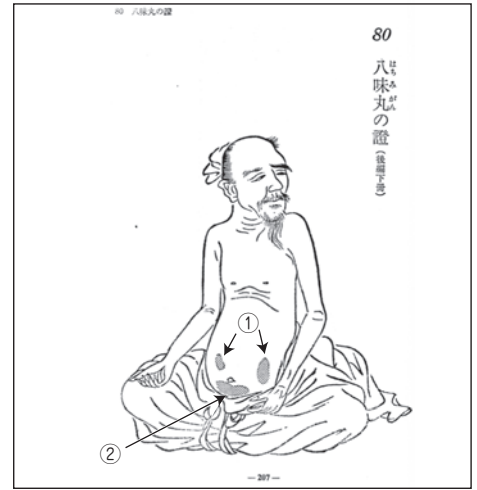


図1

皆さまから漢方に関する質問を募集しています。はがきまたは電子メールで住所、氏名（ペンネーム）、電話番号、年齢を添えて、最終ページに記載の住所またはEメール:information@ideshita-clinic.jpのいでしたクリニックとわえもあ編集係まで送付ください。